格ヲ喪失シタル場合ニ於テハ其ノ者ニ對スル脱退手當金ノ支給條件及其ノ額ニ付テハ第四十八條及第四十九條ノ規定ニ拘ラズ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得但シ第三十一條第二項後段ノ規定ニ該當スル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定施行ノ日ニ於テ五十歳(鑛業法ノ適用ヲ受クル事業ノ事業場ニ同日ニ於テ常時坑内作業ニ從事スル者トシテ使用セラルル者ニ在リテハ四十五歳)ヲ超エタル者ニシテ同日ニ於テ第十六條ノ規定ニ依ル被保險者ト爲リタルモノガ被保險者タリシ期間六月以上三年未滿ニシテ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル場合ニ於テハ第四十八條ノ規定ニ拘ラズ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ニ脱退手當金ヲ支給スルコトヲ得但シ前項ノ規定ニ依リ脱退手當金ノ支給ヲ受クル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十五條但書ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ適用セズ但シ第二十四條ノ規定ニ依リ計算シタル期間六月未滿(第一項ノ規定ニ該當スル者ニ在リテハ一年未滿)ナル者ノ坑内夫タル被保險者トシテ使用セラレタル實期間ニ關シテハ第二十四條ノ規定ニ依リ之ヲ計算ス

第七十三條　保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定施行ノ日前ニ於テ被保險者タリシ期間ハ第二十四條ノ規定ニ依ル被保險者タリシ期間ニ之ヲ算入セズ

第七十四條　保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定施行ノ日ニ於テ勅令ヲ以テ定ムル共濟組合ノ組合員タル者ニ關シテハ本法ノ適用ニ付勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第七十五條　保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定施行ノ日ニ於テ郵便年金契約ノ年金受取人タル者ニ關シテハ其ノ契約ガ郵便年金令第十四條ノ規定ノ適用ヲ受クル場合ニ於テハ本法及郵便年金法ノ適用ニ付勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第七十六條　退職積立金及退職手當法中左ノ通改正ス

第十一條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ勞働者年金保險ノ被保險者タル勞働者ニ付テハ其ノ二分ノ一以上ヨリ積立ヲ爲サザルコトノ申出アリタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

〔參照〕

昭和十一年六月三日公布法律第四十二號退職積立金及退職手當法抄錄

第十一條第一項

事業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ勞働者ノ賃金ノ中ヨリ其ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ各勞働者ニ代リ其ノ名義ヲ以テ退職積立金トシテ積立ツベシ

別表

被保險者タリシ期間	日數
三年以上	四〇
四年以上	五〇
五年以上	六〇
六年以上	七五
七年以上	九〇
八年以上	一〇五
九年以上	一二〇
十年以上	一三五
十一年以上	一五〇
十二年以上	一六五
十三年以上	一八〇
十四年以上	二〇〇
十五年以上	二二〇
十六年以上	二四〇
十七年以上	二六〇
十八年以上	二八〇
十九年以上	三〇〇

農地開發法の公布

第七十六帝國議會の協贊を經たる農地開發法は昭和十六年三月十三日付官報を以て法律第六十五號として公布された。之を掲ぐれば次の如くである。

農地開發法（昭和十六年三月十二日法律第六十五號）

第一條　本法ハ食糧自給ノ强化ヲ圖ル爲農地ノ造成及改良ヲ促進スルヲ以テ目的トス

第二條　政府ハ農地ノ造成又ハ改良ヲ行フ者ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ助成金ヲ交付スルコトヲ得

第三條　勅令ヲ以テ定ムル場合ニ於テハ主務大臣ハ前條ノ助成金ノ交付ヲ受クル者ニ對シ助成金ノ交付ヲ停止若ハ廢止シ又ハ助成金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命ズルコトヲ得

助成金ノ返還ニ付テハ公共團體ニ對スルモノヲ除クノ外國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次グモノトス

第四條　農地開發營團ハ重要農産物ノ增産ヲ圖ル爲必要ナル農地ノ開發ニ關スル事業ヲ營ムコトヲ目的トスル法人トス

第五條　農地開發營團ハ主タル事務所ヲ東京市ニ置ク

農地開發營團ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ必要ノ地ニ從タル事務所ヲ設置スルコトヲ得

第六條　農地開發營團ノ資本金ハ三千萬圓トシテ之ヲ三十萬口ニ分チ一口ノ出資金額ヲ百圓トス但シ資本金ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ增加スルコトヲ得

第七條　農地開發營團ノ出資者ハ政府、公共團體、帝國臣民又ハ帝國法人ニシテ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上、資本ノ半額以上若ハ議決權ノ過半數ガ外國人若ハ外國法人ニ屬セザルモノタルコトヲ要ス

第八條　農地開發營團ハ出資ニ對シ出資證券ヲ發行ス

出資證券ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ定ム

第九條　政府ハ千五百萬圓ヲ限リ農地開發營團ニ出資スルコトヲ得

政府ノ引受ケタル出資ノ出資金拂込ハ其ノ他ノ出資ノ出資金拂込ト之ヲ異ニスルコトヲ得

第十條　農地開發營團ノ出資者ノ責任ハ其ノ出資額ヲ限度トス

出資者ハ農地開發營團ニ拂込ムベキ出資額ニ付相殺ヲ以テ之ニ對抗スルコトヲ得ズ

第十一條　出資者ハ農地開發營團ノ承認ヲ經テ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得

第十二條　拂込ヲ怠リタル出資者ニ對シ農地開發營團ガ一月以上ノ相當ノ期間ヲ定メ拂込ノ請求ヲ爲シタルニ拘ラズ出資者ガ拂込ヲ爲サザルトキハ農地開發營團ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ出資者ノ持分ヲ處分スルコトヲ得

農地開發營團ハ持分ノ處分ニ依リテ得タル金額ヨリ滯納金額及定款ヲ以テ定メタル違約金ノ額ヲ控除シタル金額ヲ從前ノ出資者ニ拂戻スコトヲ要ス

持分ノ處分ニ依リテ得タル金額ガ滯納金額ニ滿タザル場合ニ於テハ農地開發營團ハ從前ノ出資者ニ對シ不足額ノ辨濟ヲ請求スルコトヲ得

前三項ノ規定ハ農地開發營團ガ損害賠償及定款ヲ以テ定メタル違約金ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ゲズ

出資者ガ第一項ノ期間內ニ拂込ヲ爲サザルトキハ農地開發營團ハ其ノ出資者ニ對シ二週間內ニ出資證券ヲ農地開發營團ニ提出スベキ旨ヲ通知スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ提出ナキ出資證券ハ其ノ效力ヲ失フ

前項ノ場合ニ於テハ農地開發營團ハ遲滯ナク失效シタル出資證券ノ番號竝ニ其ノ出資者ノ氏名及住所ヲ公告スルコトヲ要ス

第十三條　農地開發營團ハ定款ヲ以テ左ノ事項ヲ規定スベシ

一　目的
二　名稱
三　事務所ノ所在地
四　資本金額、出資及資產ニ關スル事項
五　役員及會議ニ關スル事項
六　業務及其ノ執行ニ關スル事項
七　農地開發債券ノ發行ニ關スル事項
八　會計ニ關スル事項
九　公告ノ方法

定款ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ變更スルコトヲ得

第十四條　農地開發營團ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第十五條　農地開發營團ニ付解散ヲ必要トスル事由發生シタル場合ニ於テ其ノ處置ニ關シテハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條　農地開發營團ニ非ザル者ハ農地開發營團又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用フルコトヲ得ズ

第十七條　民法第四十四條、第五十條、第五十四條及第五十七條竝ニ非訟事件手續法第三十五條第一項ノ規定ハ農地開發營團ニ之ヲ準用ス

第十八條　農地開發營團ニ理事長副理事長各一人、理事五人以上及監事三人以上ヲ置ク

第十九條　理事長ハ農地開發營團ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス

副理事長ハ理事長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ理事長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

副理事長及理事ハ理事長ヲ輔佐シ定款ノ定ムル所ニ依リ農地開發營團ノ業務ヲ分掌シ又ハ之ニ參與ス

監事ハ農地開發營團ノ業務ヲ監査ス

第二十條　理事長、副理事長、理事及監事ハ主務大臣之ヲ命ジ理事長及副理事長ノ任期ハ四年、理事ノ任期ハ三年、監事ノ任期ハ二年トス

第二十一條　理事長、副理事長及業務ヲ分掌スル理事ハ他ノ職業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十二條　農地開發營團ニ評議員若干人ヲ置キ主務大臣之ヲ命ズ

評議員ハ事業經營ニ關スル重要事項ニ付理事長ノ諮問ニ應ジ必要アルトキハ之ニ對シ意見ヲ述ブルコト

ヲ得

評議員ハ名譽職トシ其ノ任期ハ二年トス

第二十三條　農地開發營團ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス

一　農地ノ造成及改良ニ關スル事業

二　前號ノ事業ニ附帶スル事業

三　其ノ他農地開發營團ノ目的達成上必要ナル事業

農地開發營團前項第二號又ハ第三號ノ事業ヲ營マントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第二十四條　農地開發營團ハ拂込資本金額ノ五倍ヲ限リ農地開發債券ヲ發行スルコトヲ得

第二十五條　農地開發債券ハ額面金額五十圓以上トシ無記名利札附トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名式ト爲スコトヲ得

第二十六條　農地開發營團ハ農地開發債券借換ノ爲一時第二十四條ノ制限ニ依ラズ農地開發債券ヲ發行スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ農地開發債券ヲ發行シタルトキハ發行後一月內ニ其ノ發行額面金額ニ相當スル舊農地開發債券ヲ償還スベシ

第二十七條　農地開發債券ヲ發行セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第二十八條　政府ハ農地開發債券ノ元利支拂ヲ保證スルコトヲ得

第二十九條　農地開發債券ノ消滅時效ハ元金ニ在リテハ十五年、利子ニ在リテハ五年ヲ以テ完成ス

第三十條　農地開發債券ノ所有者ハ農地開發營團ノ財產ニ付他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

前項ノ規定ハ民法上ノ一般ノ先取特權ノ行使ヲ妨グルコトナシ

第三十一條　所得稅法及有價證券移轉稅法中國債以外ノ公債ニ關スル規定ハ農地開發債券ニ之ヲ準用ス

第三十二條　第二十四條乃至前條ニ規定スルモノノ外農地開發債券ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條　農地開發營團ノ事業年度ハ四月ヨリ翌年三月迄トス

第三十四條　農地開發營團ハ設立ノ時及每事業年度ノ初ニ於テ財產目錄、貸借對照表及損益計算書ヲ作成シ定款ト共ニ之ヲ各事務所ニ備置クコトヲ要ス

第三十五條　利益金ノ處分ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第三十六條　農地開發營團ハ其ノ資本金ノ四分ノ一ニ達スル迄ハ每事業年度ニ於テ準備金トシテ利益金ノ百分ノ八以上ヲ積立ツベシ

前項ノ準備金ハ勅令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ使用スルコトヲ得ズ

第三十七條　農地開發營團ハ拂込ミタル出資金額ニ對シ勅令ヲ以テ定ムル割合ヲ超エテ利益金ノ配當ヲ爲スコトヲ得ズ

農地開發營團ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ政府ノ出資ニ對シ利益金ノ配當ヲ減額シ又ハ之ヲ爲サザルコトヲ得

第三十八條　農地開發營團ハ主務大臣之ヲ監督ス

第三十九條　主務大臣ハ農地開發營團ニ對シ業務及財產ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシメ、檢査ヲ爲シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十條　主務大臣ハ農地開發營團監理官ヲ置キ農地開發營團ノ業務ヲ監視セシム

農地開發營團監理官ハ何時ニテモ農地開發營團ノ業務及財產ノ狀況ヲ檢査スルコトヲ得

農地開發營團監理官ハ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ農地開發營團ニ命ジテ業務及財產ノ狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

農地開發營團監理官ハ農地開發營團ノ諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第四十一條　理事長、副理事長、理事又ハ監事ガ法令、定款若ハ主務大臣ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ之ヲ解任スルコトヲ得

第四十二條　農地開發營團ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ年及其ノ翌年ヨリ十年間其ノ事業ニ付所得ニ對スル法人稅及營業稅ヲ免除ス

農地開發營團ノ所得又ハ純益ガ各事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セズ但シ本法施行ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ資本金額ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十三條　道府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ規定ニ依リ所得ニ對スル法人稅及營業稅ヲ免除セラレタル期間農地開發營團ニハ前條第二項ノ規定ニ依リ賦課セラレタル營業稅ノ附加稅ヲ除クノ外地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

道府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ農地開發營團ガ其ノ事業ノ爲ニスル不動產取得ニ對シテハ地

方稅ヲ課スルコトヲ得ズ

第四十四條　土地ノ農業上ノ利用ヲ增進スル目的ヲ以テ農地開發營團ガ主務大臣ノ定ムル區域及計畫ニ依リ行フ左ノ各號ノ一ニ該當スル事業（以下農地開發事業ト稱ス）ハ第四十五條乃至第六十一條ノ定ムル所ニ依ル

一　耕地整理法第一條第一號ノ耕地整理トシテ行フコトヲ得ル事業

二　他人ノ所有ニ係ル農地ノ改良ヲ目的トスル農業水利施設ノ新設、廢止又ハ變更

第四十五條　主務大臣前條ノ區域及計畫ヲ定メントスルトキハ農林計畫委員會及道府縣農地委員會ノ議ヲ經ベシ

主務大臣前條ノ區域及計畫ヲ定メタルトキハ之ヲ農地開發營團ニ通知スベシ

第四十六條　農地開發營團ハ命令ノ定ムル所ニ依リ豫メ農地開發事業ノ施行地區及實施計畫ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第四十四條第二號ノ事業ニ付前項ノ認可ノ申請アリタルトキハ主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ告示シ二十日以上ノ相當ノ期間ヲ定メ其ノ期間內實施計畫書ノ寫ヲ施行地區內ノ土地ノ所有者及利害關係人ノ縱覽ニ供スベシ

前項ノ土地ノ所有者又ハ利害關係人實施計畫書ニ記載セラレタル事項ニ關シ異議アルトキハ前項ニ揭グル期間內ニ主務大臣ニ之ヲ申出ヅルコトヲ得

主務大臣異議ヲ正當ト認ムルトキハ當該事項ニ付變更ヲ加ヘテ認可ヲ爲スコトヲ得

主務大臣第四十四條第二號ノ事業ニ付認可ヲ爲シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ告示ス

第四十七條　御料地、國有地及官ノ用ニ供スル土地其ノ他勅令ヲ以テ定ムル土地ハ農地開發事業ノ施行地區ニ之ヲ編入スルコトヲ得ズ但シ勅令ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第四十八條　耕地整理施行地又ハ普通水利組合（水利組合法第九條第二項ノ場合ニ於ケル水害豫防組合ヲ含ム）若ハ北海道土功組合ノ區域內ノ土地ハ農地開發事業ノ施行地區ニ之ヲ編入スルコトヲ得ズ但シ勅令ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ場合ニ於テ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十九條　農地開發事業施行ノ準備ノ爲必要アルトキハ農地開發營團ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ職員ヲシテ他人ノ土地ニ立入リ測量又ハ檢査ヲ爲シ障害物ヲ移轉又ハ除却セシムルコトヲ得但シ之ニ因リテ生ジタル損害ハ之ヲ補償スベシ

前項ノ規定ハ主務大臣農地開發事業ニ關スル調査ヲ爲ス爲必要アル場合ニ之ヲ準用ス

第五十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル土地ハ農地開發營團之ヲ收用スルコトヲ得

一　農地ノ造成ニ供スル未墾地

二　前號ノ未墾地附近ノ土地ニシテ當該未墾地ト併セテ耕地整理ヲ施行スルヲ必要トスル土地

左ノ各號ノ一ニ該當スル土地ハ農地開發營團之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

一　前項ニ揭グル土地ノ開發ノ爲必要ナル土地

二　前號ニ揭グルモノヲ除クノ外農業水利施設ノ新設、廢止及變更ノ爲必要ナル土地

前二項ノ規定ニ依ル收用又ハ使用ニ關シテハ土地收用法ヲ適用ス

第一項第二號ノ規定ニ依リ收用シタル土地ノ管理及處分ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十一條　前條第二項及第三項ノ規定ハ水ノ使用ニ關スル權利、土地ニ定著スル物件又ハ土地ニ屬スル土石砂礫ノ收用又ハ使用ニ之ヲ準用ス

第五十二條　政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ豫算ノ範圍內ニ於テ農地開發營團ニ對シ農地開發事業ノ施行ニ要スル費用ヲ補助スルコトヲ得

第五十三條　主務大臣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第四十四條第二號ノ農地開發事業ニ因リ利益ヲ受ケタル者ニ對シ現ニ受クル利益ノ限度ニ於テ其ノ事業ノ施行ニ要シタル費用ノ一部ヲ農地開發營團ニ支拂フベキコトヲ命ズルコトヲ得

前項ノ命令ヲ受ケタル者之ニ異議アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第五十四條　前條ノ規定ニ依リ費用ノ支拂ヲ命ゼラレタル者其ノ支拂ノ義務ヲ履行セザルトキハ市町村ハ農地開發營團ノ請求ニ因リ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス

前項ノ場合ニ於テハ農地開發營團ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ニ相當スル金額ヲ市町村ニ交付スベシ

第五十五條　農地開發事業ノ施行地區內ノ土地若ハ土地ニ定著スル物件ノ所有者其ノ他之ニ關シ權利ヲ有スル者又ハ漁業權者若ハ入漁權者其ノ他此等ノ權利ニ關シ權利ヲ有スル者ガ農地開發事業ノ施行ニ因リテ受クル損害ハ農地開發營團之ヲ補償スベシ

前項ノ補償金ニ付協議調ハザルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ主務大臣ノ裁定ヲ求ムベシ

前項ノ決定ニ對シ不服アル者ハ其ノ決定書ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ三月內ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ第四十九條ノ規定ニ依ル損害ノ補償ニ之ヲ準用ス

耕地整理法第二十五條、第二十五條ノ二及第二十七條ノ二第二項ノ規定ハ第一項及第四十九條ノ規定ニ依ル損害ノ補償ニ之ヲ準用ス

第五十六條　農地開發事業ノ施行地區ニ付漁業權又ハ入漁權アル場合及第四十四條第二號ノ事業ヲ施行スル場合ニ於テハ農地開發營團ハ前條第一項ノ規定ニ依ル損害ノ補償ヲ爲シタル後ニ非ザレバ其ノ工事ニ著手スルコトヲ得ズ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　損害ノ補償ヲ受クベキ權利者ノ同意ヲ得タルトキ

二　前條第二項ノ規定ニ依ル裁定アリタル金額ヲ供託シタルトキ

第五十七條　農地開發營團農地開發事業ノ工事ヲ竣功シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ニ竣功認可ヲ申請スベシ

第五十八條　第五十條第一項第二號ノ規定ニ依リ收用シタル土地ヲ除クノ外第四十四條第一號ノ農地開發事業ニ因リ造成セラレタル農地ニシテ農地開發營團ノ所有ニ係ルモノニ付農地調整法第四條ノ自作農創設維持ノ事業ヲ行フ者ノ申出アルトキハ農地開發營團ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ其ノ事業者ニ讓渡スルコトヲ要ス

前項ノ場合ヲ除クノ外前項ニ揭グル農地ノ管理及處分ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第五十九條　農地開發事業ノ施行ニ因リ生ジタル道路、堤塘、溝渠、溜池等ハ農地開發營團勅令ノ定ムル所ニ依リ道府縣、市町村、水利組合其ノ他勅令ヲ以テ定ムル者ニ之ヲ引渡スベシ

前項ノ場合ニ於テハ道府縣、市町村、水利組合其ノ他勅令ヲ以テ定ムル者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前項ニ揭グル設備ノ引渡ヲ受ケ之ヲ維持管理スベシ

第六十條　耕地整理法第六條、第十八條乃至第二十一條、第二十二條第二項第三項、第二十三條、第二十四條及第二十七條ノ規定ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第四十四條第二號ノ農地開發事業ニ之ヲ準用ス

第六十一條　本法ニ定ムルモノヲ除クノ外農地開發事業ニ付必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十二條　農地開發營團ノ理事長、副理事長、理事、監事又ハ使用人其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求シ若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第六十三條　前條第一項ニ揭グル者ニ賄賂ヲ交付シ又ハ之ヲ提供シ若ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕シ又ハ免除スルコトヲ得

第六十四條　農地開發營團本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ理事長又ハ理事長ノ職務ヲ行ヒ若ハ代理スル副理事長ヲ五千圓以下ノ過料ニ處ス副理事長又ハ理事ノ分掌業務ニ係ルトキハ副理事長又ハ理事ヲ過料ニ處スルコト亦同ジ

第六十五條　農地開發營團ノ理事長、副理事長又ハ業務ヲ分掌スル理事第二十一條ノ規定ニ違反シ他ノ職業ニ從事シタルトキハ千圓以下ノ過料ニ處ス

第六十六條　第十六條ノ規定ニ違反シ農地開發營團又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用ヒタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス

第六十七條　主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ニ依ル職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

附　則

第六十八條　本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十九條　主務大臣ハ設立委員ヲ命ジ農地開發營團ノ設立ニ關スル事務ヲ處理セシム

第七十條　設立委員ハ定款ヲ作成シ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

前項ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ出資者ヲ募集スベシ

第七十一條　設立委員ハ出資者ノ募集ヲ終リタルトキハ出資申込書ヲ主務大臣ニ提出シ設立ノ認可ヲ申請スベシ

前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク出資第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第七十二條　出資第一回ノ拂込完了シタルトキハ出資

者ノ總會ヲ招集スベシ

前項ノ總會終結シタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク其ノ事務ヲ農地開發營團理事長ニ引渡スベシ

理事長前項ノ事務ノ引渡ヲ受ケタルトキハ理事長、副理事長、理事及監事ノ全員ハ主タル事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ

農地開發營團ハ設立ノ登記ヲ爲スニ因リテ成立ス

第七十三條　本法ニ規定スルモノノ外農地開發營團ノ設立ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十四條　開墾助成法ハ昭和十七年三月三十一日限リ之ヲ廢止ス但シ同日以前ニ同法ニ依ル助成金交付ノ指令ヲ受ケタル者ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第七十五條　登錄稅法中第五條ヲ左ノ如ク改ム

第五條　農地開發營團カ農地開發債券ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムベシ

一　農地開發債券又ハ其ノ第二回以後ノ拂込

毎回拂込金額　千分ノ二

二　登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止

毎一件　金十圓

從タル事務所ノ所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ毎一件金二圓ノ登錄稅ヲ納ムベシ

第七十六條　登錄稅法第十九條第七號中「產業組合」ノ上ニ「農地開發營團、」ヲ、「產業組合法」ノ上ニ「農地開發法、」ヲ加ヘ同條第十六號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

十六ノ二　農地開發營團カ農地開發事業ノ爲ニスル土地ノ權利ノ取得又ハ所有權ノ保存ノ登記

第七十七條　印紙稅法第五條第五號ヲ左ノ如ク改ム

四ノ二　小切手

五　農地開發營團ノ發スル出資證券

〔參照〕

明治二十九年三月二十八日公布法律第二十七號登錄稅法

抄錄

第五條　削除

第十九條　左ニ揭グルモノニハ登錄稅ヲ課セズ但シ第二號ノ二、第八號乃至第九條ノ四、第十一號、第十二號及第十四號乃至第十七號ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依ル

七　恩給金庫、產業組合、產業組合聯合會、產業組合中央會、庶民金庫、蠶絲共同施設組合、漁業組合、漁業組合聯合會、商工組合中央金庫、工業組合、工業組合聯合會、工業小組合、工業組合中央會、商業組合、商業組合聯合會、商業小組合、商業組合中央會、貿易組合、貿易組合聯合會、貿易組合中央會、造船組合、造船組合聯合會、海運組合、海運組合聯合會、肥料製造業組合、自動車運送事業組合又ハ自動車運送事業組合聯合會ニ付恩給金庫法、產業組合法、庶民金庫法、蠶絲業法、漁業法、商工組合中央金庫法、工業組合法、商業組合法、貿易組合法、造船事業法、海運組合法、重要肥料業統制法又ハ自動車交通事業法ニ基キテ爲ス登記

十八　庶民金庫ノ業務ノ用ニ供スル不動產ニ關スル登記

明治三十二年三月十日公布法律第五十四號印紙稅法

抄錄

第五條　左ニ揭グル證書、帳簿ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セズ

五　小切手

厚生省衞生局の公醫依託養成制度の制定

我が國に於ける醫師の偏在と多數の無醫村存在の弊害に對處するため厚生省衞生局に於ては今回その一對策として公醫依託養成制度を創設し醫療普及の一端に資することとなつた。參考の爲「公醫依託生志願者便覽」を揭ぐれば左の如くである。

公醫依託生志願者便覽

趣　旨

我國は今や東亞共榮圈の確立に邁進しつゝあり高度國防國家の建設は喫緊の要務である。

此の大使命達成の爲には人的資源の涵養、確保が極めて重要であり國民體位の向上、保健衞生の振作が最も肝要である。而して國家の此の要望に對し最大の責務を有する者は醫師であることは多言を要しない。されば醫師の國家に對する使命は將來愈〻重且大を加ふるものと謂はねばならない。

然るに我國に於ける醫師の分布狀況を見るに著しく都市に偏在し農山漁村に薄く醫師なき村が年々增加してをることは國民醫療上實に憂ふ可き現象である。政府は此等の無醫村に對して補助金を交付して診療所を設け醫療機關の充實を計り來つたのであるが之に勤務する醫師も近來は容易に得難き狀況になつたのである。

斯くる實情に鑑み厚生省は今回公醫依託養成制度を創設して公醫となる者を採用し醫學校に依託して養成